



第66回 地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、瀬崎由美さんにご紹介いただいたこの方は、「地域の子供達に子ども食堂で美味しいご飯を作っているスゴイ人」とのこと。インタビュアーは又木志帆でお届けします。

【今回のスゴイ人】
なないろ子ども食堂
小園 伊津子さん



今回は、末吉町で「なないろ子ども食堂」を運営している小園伊津子さんにお話を伺ってきました。

小園さんのご出身は宮崎県日南市。高校卒業後、鹿児島市の短期大学に進学しました。大学で栄養士の資格を取ると、末吉町の児童養護施設に就職。結婚を機に退職しますが、その後は市役所の在宅栄養士・保育園の栄養士・児童クラブの指導員として勤務しました。「ずっと子ども関係の道を歩んできました。子どもが好きなんです」

その一方でなんとなく子ども食堂をしてみたいと考えていた小園さん。そんな時にテレビで子ども食堂を特集した番組を観ました。

「普段は気が付かないけど、食に関する課題がある子どもが、たくさんいることを知りました。そこから子ども食堂の開設を真剣に考えるようになりました」

そして昨年の8月に、なないろ子ども食堂をオープン。なないろは虹をモチーフに、色々な方が来て交流できる場になるようにと名付けられました。今では子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々

への支援の場に。その支援は地域にも広がりを見せています。

「農家の方々から、お米が残っていてもったいないから使って！と寄附していただくこともあります」

地域の方々のお気持ちを、利用者にも届ける橋渡しにもなっています。

また、児童クラブの指導員をしていた経験を活かして、今年4月から、なないろ児童クラブを立ち上げました。

「子ども食堂と連携して、家庭の支援と食育の大切さを伝えていけたらと思っています」

今後は、なないろ子ども食堂を拠点に地域に密着した事業として、離乳食の支援・子育て中のお母さんのリフレッシュの場づくり・高校生への料理教室・子ども達の安心安全な居場所づくりを手掛けたいと夢が大きくなっているそうです。

「今はコロナ禍でお弁当の配布が多いですが、本来のように、みんなでご飯を囲みながら楽しく過ごせるようになればいいな」
なないろ子ども食堂は小園さんの温かみを感じる場所でした。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

子ども食堂や児童クラブの設立。色々な現場で子ども達を見てきた小園さんだからこそ、必要性を感じ、実現できたのだと思います。温かく、愛情深いみんなのお母さんのようでした。(又木)



なないろ子ども食堂

曾於市末吉町新町1丁目(徳重自動車前)

☎ 080-6246-7716

※毎月第3日曜日に開設しています。

※電話かラインで予約が必要です。



ボランティア募集

子ども食堂の活動をお手伝いできる方を募集しています。

寄附のお願い

自宅で余っている食材がある方は寄附のご協力をお願いします。

協力隊の今日この頃

今月も又木です。だいぶ暑さも増して、夏に近づいているのを感じますね。皆さんはどのお過ごしでしょうか。私はいくと、今年もソバージュ栽培でトマトを作っています。以前のTOMALANDと変わった点が一点ありまして、場所がメセナ住吉交流センターの隣に移動しました。5月末に植え付けたばかりですが、最近天気がいいのもあってぐんぐん成長中です！温泉に来た際には覗いて、声をかけてください。作業していき

ると「今日も頑張ってるね」と声をかけてくださる、お母さんありがとうございます。また「なないろ子ども食堂」にもお邪魔しました。小園さんとボランティアの方々のお情がこもったハンバーグカレー。それを手にしたお子さんやお母さんの笑顔が印象的でした。様々な人がそれぞれの立場で参加し、交流できる場。人とのコミュニケーションが少なくなってきている今、交流の大切さを再確認しました。(又木)



子ども食堂でアイスクリームのおかわりに手をあげる子ども達